

令和5年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等： 国際交流センター

事業担当者の職・氏名： 助教・正路真一

内線電話番号： 9203

電子メール： shoji.shinichi@dhier.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内、別に副題を付けても良い）

サウスカロライナ大学語学・異文化理解研修

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要（簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください）

本事業は、本学の派遣学生の①英語能力の向上と、②異文化体験を通じた考えや感性の深まりの二つを目的として実施したものである。派遣先機関の米国サウスカロライナ大学 English Programs for Internationals には、世界の様々な国から来た学生たちが在籍しており、一クラスにおける日本人学生の数も2~3人であることから、本学学生にとっては英語を使った外国の学生とのコミュニケーションの機会が多く与えられる環境が整っている。プログラム期間中、派遣学生は週に5日、計20時間の集中英語講座を、6週間受講した。帰国後には事後研修として報告会に参加し、また報告レポートを提出した。

(2) 事業の背景・これまでの実績

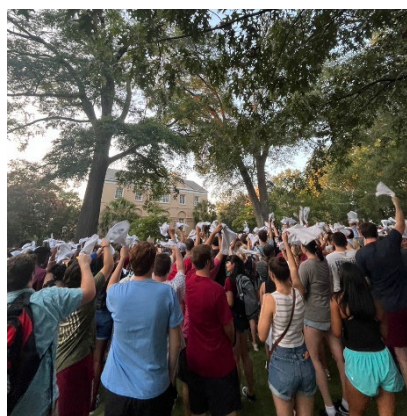
本事業は、もともとは2019年度春期に初めて実施される予定であったが、コロナ禍の影響で中止されたものを、本年度夏期に実施したものである。従って、今回の実施が、本事業の初めての実施となる。ただし、本事業を実施すべく、2020年度に派遣先機関と本学国際交流センターの間で覚書を交わしている。

(3) 事業実施結果

本研修は2023年8月21日から9月29日までの6週間にわたり、その間参加学生は、月曜日から金曜日までサウスカロライナ大学で英語の語学クラスを受講した（月曜日から木曜日までは午前・午後のクラス、金曜日は午前のみ）。授業の内容としては、アクティビティや教室外でのインタビュー活動などを含む学生参加型の授業が主であった。また、毎週水曜日の午後は、現地学生と交流する時間が設けられた。その他、派遣先機関の主催で、リンゴ狩りやアップルパイ作り、その他パーティなども開かれた。滞在中は本学の学生が現地市民の家庭にシェアハウスという形で滞在した。



(アップルパイ作り)



(パーティ)

(4) 事業の意義

参加学生がアメリカで生活し、授業での学習や世界各地から来た学生たちとの交流を通して、言語能力を向上させることはもちろん、異文化を体験することで、これに対する理解や許容力が高まると考えられる。

(5) 事業の発展性

本研修は、本学国際交流センターが提供する短期研修としては最も期間が長いもの（6週間）であり、またおそらく最も多くの国の外国人学生と交流する機会が与えられるものである。本年度の本学からの参加学生は2名と少なかったが、これは、本研修の実施は今回が初回であったことから過去の参加者から提供される情報がなかったことが理由の一つとして考えられる。今回の参加者の報告が次回以降の参加希望者に提供されるため、今後の参加者は増加すると予想される。また、本年度は例外的とも言える円安の時期に当たり、円安が解消すれば、さらに本学学生の参加は増えると推察される。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

(8) 学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成する。

(7) その他

特になし。

令和5年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

三重大学国際交流センター主催の米国サウスカロライナ大学への語学・異文化理解研修は、2023年度夏期に初めて実施された研修です。本研修は、三重大学国際交流センターが主催する短期研修としては最も長い6週間という研修期間が設けられ、今回は8月21日から9月29日まで、三重大学生が渡米して英語の授業を受けました。

研修先機関は、サウスカロライナ大学付属の **English Programs for Internationals (EPI)** で、ここには、世界各国から多くの学生が英語を学びに、または米国の大学に入学する準備学習期間として在籍しています。クラスは **Vocabulary & Writing, Reading & Grammar, Speaking & Listening** の3種類があり、各学生の英語能力に応じて6つのレベルにクラスが分かれて開講されています。一クラスの学生数は約10名の少人数制で、その中で日本人学生は2~3人程度であることから、日本人だけで固まって日本語ばかりを話してしまうことなく、英語でコミュニケーションをとる機会が多くある環境が整えられています。また、授業では、学生どうしのペアワークやグループワーク、または教室の外に出て現地学生にインタビューをするといった活動を含む学生参加型授業が展開され、これによって実践的な英語能力が育まれます。

本学から派遣された学生たちは、授業での活動の他、様々な国から来た学生たちと積極的に交流し、一緒に小旅行に出かけるまで仲良くなり、英語を使った異文化交流を多く体験しました。また、本学学生は、研修期間中、現地市民の家にハウスシェアという形で滞在し、ハウスオーナーとの交流も楽しみました。日本に帰国する際は、「帰りたくない」と泣いてしまう学生もおり、本研修が一生の思い出に残る貴重な体験であったことがうかがえます。



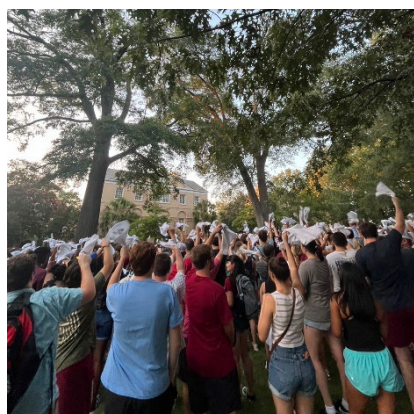
(現地の友人との交流)

令和5年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

This study-abroad program for learning the English language and foreign culture, offered by Center for International Education and Research (CIER), Mie University, is conducted as the first trial at the University of South Carolina, USA. This program offers six weeks of stay, which is the longest period among those of the other short-term abroad programs offered by CIER, Mie University. This time, Mie University students stayed in the US from August 21st to September 29th to take English classes there.

The institute for this program, where Mie University students studied, is English Programs for Internationals (EPI) at the University of South Carolina. At EPI, students from different countries in the world study English (for some students, as a preparatory study for entering a US university). Three types of classes are offered there: Vocabulary & Writing, Reading & Grammar, and Speaking & Listening. Each type of classes are divided into 6 different levels, and a student takes appropriate levels of classes for his/her English proficiency. A class size is small, which usually includes about 10 students, in which Japanese students are only 2 or 3. Therefore, Japanese students cannot speak only in Japanese with other Japanese students, and they must have many opportunities to communicate in English with students from other countries. Also, the classes at EPI are often student-centered in order to train students' practical English ability. Specifically, pair work and/or group work are frequently assigned on students, and sometimes they must go out of the classroom to interview with college students at the university.

The students from Mie University attended the classes and interacted with students from other countries in and out of classrooms. They became close friends and even went on a small trip to other cities together. From those experiences, the students were exposed to many intercultural experiences. Also, the students from Mie University stayed at nearby citizens' houses in the house-sharing style, and the house owners friendly took care of the students. When they had to come back to Japan in September, one of the students cried because she wanted to stay there, which implies that this program was a precious and important experience for the students.



(Partying with students from multiple countries)